

令和7年5月24日(土)

50th
ANNIVERSARY



昨日は、体育祭予行を行いました。約半数のクラスが学級閉鎖及び学年閉鎖を明けたばかりでしたので、怪我人が出ないか、運営が滞らないか、若干の不安はありました。しかし、生徒たちの活力あふれる姿や先生たちと連携しながら自分の仕事をやり遂げる様子を見て、これなら大丈夫だと感じました。本校の生徒は、目標に向かってみんなで進むことができる良さ、つまり「共創」を実践できる校風があります。体育祭は、延期になってしまい、少し残念に感じている生徒もいるとは思いますが、気持ちを切り替えて本番に臨んでほしいですね。

2年生の学年掲示板には、体育祭の取り組みの経過がわかる掲示物が貼られています。特に、大縄の練習については、日々記録を伸ばしており、目標に向かって進む成長の記録となっています。予行でも、本番さながらの白熱した競技がいくつもありました。はたして、前評判通りとなるのか？ ここ一番の力を発揮してどんでん返しがあるのか？ ぜひ、保護者・地域の皆様には、生徒の活躍を見届けていただきたいと思います。



「令和の日本型学校教育」という言葉があります。これは、令和3年1月に発表された中央教育審議会答申の中に出てくるもので、「協働的な学び」「個別最適な学び」を一体的に進めることです。本校の教育課程編成方針にも取り入れています。協働的な学びは、探求的な活動や体験活動などで他者と協働し、多様な考え方を取り入れながら学ぶことです。「三人寄れば文殊の知恵」といえば、イメージしやすいでしょうか。個別最適な学びは、一人一人の力に応じた学びを充実させることです。自学自習の力を延ばすことと言い換えることもできます。協働的な学びと個別最適な学びを一体的に進めるにあたっては、タブレット PC が大きな力となります。今年度から、協働的な学びを支える学習支援アプリが、スカイメニューからスクールタクトに変わりました。画像は、1年生の社会科ですが、スクールタクトをプラットフォームとして、教師から課題が出されたり、ホワイトボード機能で班の意見を集約したりすることが、いっそうやりやすくなりました。個別最適な学びについては、昨年も活用していた AI ドリルであるすららドリルを継続していきます。



教育実習は、2週間が経過しました。残りは1週間となり、授業実習に取り組む時間が増えてきました。写真は、2年生のハードルです。体育科の先生のみならず、担任の先生も様子を見届けに来ていました。緊張しながらも、一生懸命取り組む姿は、教員の原点です。来週は、研究授業を実施するので、実習の成果を発揮できるといいですね。

